

天理文化協会の誕生

ニューヨーク天理文化協会副主任
福井 陽一 Yoichi Fukui

1980年から84年にかけて、天理大学英米学科に在籍し、大変お世話になった。卒業の頃、恩師に「君達は、今は何もできないだろうが、10年20年経ったらしっかり大学に恩返しさせてもらえよ。楽しみにしているよ。」と激励されたことを鮮明に覚えている。恩返しどころか何もできないまま、もう30年以上が過ぎた。現在、ニューヨークで日本語教育に携わっているが、いまだに日本語を話すことも書くことも苦手で、執筆の依頼をいただいた時に躊躇したが、少しでもお役に立てたら幸いとの思いでニューヨークの様子を綴ってみることにした。

設立の頃

1991年ニューヨーク・マンハッタンに、天理文化協会が誕生した。それを遡る4年前の1987年、設立10周年を終えたニューヨークセンターでは、今後の新たな活動として、地域社会への貢献と接点創り、そして、陽気ぐらしの輪を広げていくおたすけ活動の一環として文化協会設立の案が浮上した。翌年、海外布教伝道部（現、海外部）より許可を得て、ニューヨークセンターを中心に現地教友によって準備が進められた。

オープニングレセプションでは、アジアソサエティーのディレクターで日本国憲法の作成にも携わったベアテ・ゴードンさんを来賓に迎え、鏡開きが盛大に行われた。当時の文化協会のパンフレットに、板倉知治会長は、「ニューヨーク天理文化協会は、世界中の人種が集う大都会の一隅に、神人和楽のための空間広場を設け、芸術を愛する人々を中心に、創造と調和、啓蒙の場を提供します。多くの方々の御理解と協力をお待ちしています。」と書かれた。

所在地

文化協会はソーホー地区ブロードウェイ 575 番地に誕生した。レントの高騰もあり、賃貸契約が切れる前年、2000年にグリニッジビレッジ地区の5番街と6番街に挟まれた西13ストリート43番地に移転した。この時、教会本部の親心で、建物の1階フロアを購入することができた。この地区には、ニューヨーク大学をはじめ、パーソンズ美術大学やマネス音楽院を傘下に置くニュースクール大学、プラット・インスティテュートなどの大学が多い文教地区とも言える。また、ワシントンスクエア公園やジャズで有名なブルーノート、ビレッジパンガードなどがある。古くからニューヨークの芸術の中心地として発展してきた場所でもあり、作家O・ヘンリーやオルコットの住居も残っている。ちなみに文化協会のある13ストリートは、たくさんのレストランが並びレストラン通りとも呼ばれている。隣にはニューヨーク大学の寮、その隣はニュースクール大学、向かいには映画館、劇場、ホテルが並んでいる1ブロック北の14ストリート沿いにはユニオンスクエア公園やグーグルのオフィスがある。若者が多く住む活気溢れる街で、現在はニューヨークで一番ホットな地区と言われている。文化協会の活動もこのような若い人々を対象にした教育分野での活動がますます求められているように感じる。

建物

文化協会のある建物は1906年に建てられた9階建ての美

しいビルで、昔ガラス工場として使われていた。そのため、ガラスハウスビルディングとも言われている。その後、デパートや撮影スタジオとして使用され、現在文化協会が1階に入っている。天井が高く、3分の1のスペースにメザニン（中二階）を作り、総面積が合わせて約6,400平方フィート（約600平方メートル）になる。



ニューヨーク天理文化協会

内装設計は、当時コロンビア大学で教鞭を取っていたスコット・マーブル（Scott Marble）氏が担当、ガラスを効果的に使った素晴らしい空間が出来上がっている。この内装はその年に作られた全米の内装作品の中で最も優れている建築に贈られるインテリア・デザイン賞を受賞している。

活動内容

活動内容は日本語学校を中心にコンサート、絵画の展示会などの文化活動が行われている。2002年からは、子供対象の日本語クラスもスタートし、現在では子供210名、大人170名の合わせて380名が在学している。コンサートも年間100回以上行われ、展示会も常時開催されている。

2010年からは天理大学ニューヨークキャンパスとして、インターンシップ研修、日本語教育実習、英語短期集中講座、交換留学生や認定留学生のお世話取りを行っている。

経費

海外部に設立の許可を得た時は、最初の3年間だけは、教会本部からの援助金を元に運営し、その後は独立採算で進めていく予定だった。しかし、なかなか自立できず、開設して25年目の2016年によく援助金なしで運営できる状態になった。日本語学校の授業料がかなりの部分を占めているが、そのほか、コンサートやギャラリーなどの収入、寄付金などで運営している。

文化協会に携わるスタッフは、「底なしの親切」と「いつも笑顔」をモットーにつとめている。広い世界を縮図にしたようなニューヨークの地で、様々な活動を通して、多くの人々に陽気ぐらしの教えに接する機会を提供するには、スタッフ自らが醸し出す陽気な姿が何よりも大切になる。それは、同時にスタッフ自身の心の成人の場でもあると思われる。これから、ますます多くの人々に文化協会に携わってもらい、力を合わせて天理の光を輝かせていきたいと思っている。

今回は、文化協会の大まかな紹介となったが、次回からは、ニューヨークの様子なども含めながら、文化協会の動きを詳しく伝えていきたいと思う。